

小学校5年児童を対象とした短時間グループアプローチの実践

曾山和彦

Practice of the Short Group Approach on the Fifth Grade of Elementary School

Kazuhiko Soyama

1. はじめに

今、全国各地の学校や教育委員会の研修・講演等の依頼を受ける中で、学校現場の声として届くのは、「教師や友だちが話していると、『どうでもいい』『興味ない』という言動をあからさまに示すが、その反面、自分の話は『聴いて、聴いて』と訴えてくる子どもが増えてきた」という声である。いったい、何故、このように教師や友だちに向き合おうとしない子どもが増えてきたのだろうか。その問いに対しては、杉森（2009）の知見が参考になる。杉森は、大人も子どもも含めた現代人の心理状態について、「大切に思う人の範囲が狭いのではないか」という指摘をしている。大切に思う人の範囲が狭く、心の中に自分以外の他者がそれほど多くのスペースを占めていないとしたら、「ボクの心に住んでいない人に向き合うはずないでしょ」「ワタシの心に住んでいないあなたを大事になんてできない」と、子どもたちが考えるのも無理からぬことである。このように、現代に生きる子どもたちの心の中に自分以外の他者が住みにくいのは、子どもたちを囲む環境（家庭、地域等）が、かつてのように人と人がかかわり合う場面を用意しにくくなってきている、すなわち「かかわりの量的不足」の影響があると考えられる。さらに、「見る・聞く・話す」等に関しても直接的にかかわらずとも、ゲームや携帯電話等の道具を介した間接的なかかわりによって行うことが増えてきている、すなわち「かかわりの質的变化」も影響しているのだろうと考えられる。このような「かかわりの量的不足・質的变化」が、ほどよい自尊感情や適切なソーシャルスキルを育む機会を奪い、教師や友だちに向き合おうとしない子どもたちを生み出していると言えるのではないだろうか。

筆者は、現代社会の「かかわりの量的不足・質的变化」を補うことにおいて、学校存在の大きな意義があると考えている。いじめ、不登校に代表される学校不適應に関する先行研究では、自尊感情、ソーシャルスキルとの関連を示唆するものが多くある（石川・山下・佐藤、2007、岩上・戸ヶ崎・嶋田・坂野、1998）。自尊感情もソーシャルスキルも、本を読み、知識を蓄えたところで育まれるものではなく、どちらも人とのかかわりを通して育まれることに共通点がある。家庭や地域の教育力が弱まっていると指摘されるのは、その場に「人が集まる機会」そのものが消えてきているからである。かつてのように、子どもが多い家庭、祖父母との3世代同居の家庭は減り、盆や正月、本家に親戚一同が集まる機会も減ってきている。隣に誰が住んでいるのかわからない地域が多くなり、近所の子どもを褒めたり、叱ったりできる大人の存在も皆無という地域もあることだろう。国や地

方自治体は、家庭や地域の教育力向上に向け、子育て支援策や地域活性化策を進めているのが、その効果が表れるのを指をくわえて待つことはない。なぜならば、学校には以前同様、「集団」が残されているからである。子どもたちが学校生活のほとんどを過ごす「学級集団」が、現代社会の「かかわりの量的不足・質的变化」を補うための重要な場となり得ると考えている。

そのような考えに立ち、筆者はこれまでも、学校現場と連携し、SST（ソーシャルスキル・トレーニング）やSGE（構成的グループ・エンカウンター）等のグループアプローチを取り入れた実践を重ねてきている（曾山, 2011a, 曾山, 2011b, 曾山・武内, 2012, 曾山・木原, 2013）。本稿では、これまでの実践研究を経て明らかになった知見をもとに、新たに取り組んだ実践の報告を行うものである。

2. 対象学級

公立小学校5年生 X 学級 27 名（男子 15 名、女子 12 名）。小学校5年生を対象としたのは、思春期（第二次性徴の開始～身長伸びが止まるまで）に入った児童、入前の児童が混在する学年であり、また、「チャム」（親友）段階に相当する女子の小グループ化等の問題が指摘される学年であること、これまで筆者の研究では対象として取り上げたことがないこと等の理由による。担任は50歳代男性である。

3. 実施プログラム

筆者はこれまでの研究（曾山・武内, 2012）を通して、「学級における SST 活用のポイント」として、①人づきあいの楽しみ方を学ばせるつもりで指導すること；②教え込むような雰囲気ではなく楽しい雰囲気の中で行うこと；③学ぶ子どもたちにとって楽しくて仕方ないような工夫をすること；④友だちと一緒に活動する喜びを味わえるようにすること；⑤短時間でできること；⑥継続して実施すること、の6点を挙げている。それ故、本プログラムにおいてもそれらのポイントを意識した展開を考えた。実際に授業の中で使用したプレゼンテーション資料をもとに、20 分間の提示授業（実施プログラム）の流れを説明する。

(1) テーマの提示

本時のテーマ「友だちづくり名人になるヒント」を提示し、子どもたちにはっきりと授業に対する目的意識をもたせるようにする。「この中には、すでに『名人』がいるかも…」等の言葉をかけながら、「どんな話が始まるのか？」という期待をふくらませるようにする。



(2) テーマの具体化

テーマ「友だち名人」について、具体的にはどのような人であるかを説明する。特に、本時は「聴き上手」に絞り、「あの人がうなずくだけで出る勇気」をキーセンテンスとして紹介し、「名人」のイメージをつかみやすいようにする。

私が出会った「友だちづくり名人」

聴き上手 ← 「あの人がうなずくだけで出る勇気」

「聞く」とは違う
「聴く」は、「耳」+「目」+「心(気持ち)」

みんなも「名人」に出会っているのでは？

2

(3) テーマに迫るゲーム活動

学級における SST 活用のポイント①～④にあるように、楽しい雰囲気をつくり、その中で友だちとのかかわりを楽しむことができるようなゲームを行う。教師の指示を聴かないとできないゲームを用意し、「聴く」というねらいを常に意識させるために、「いい耳をもっているね」等の評価を盛り込みながら活動を進める。

みんなは「聴き上手」?

楽しいゲームで確かめてみよう!

ゲームを二つ紹介します!

1. 後出しジャンケン
2. ゴジラとゴリラ

3

(4) テーマの再確認

まとめとして、最後にもう一度、「友だちづくり名人とは？」と問いかけ、本時のねらいの達成度を伝えるようにする。

まとめ、めざそう! 友だちづくり名人

人はだれでも、「名人」になれる!

うなずいて友だちの話を聴こう!

「笑顔」もつけたらもっといい!

4

4. 参加児童の感想

提示授業を受けての児童の感想は、本稿末の〈参考；全児童の授業感想〉に全文を示した。Table 1 に示したものは、その中から、特に「授業のねらい；話を聴く」に関する感想である。学級内に楽しい雰囲気をつくり、友だちとのかかわりを盛り込みながら、ねらいである「話を聴く」に迫った授業であったが、感想からは、教師のねらいとするところが児童に伝わったと考えられる。

Table 1 授業のねらいに関する参加児童の感想

「聞く」とは違う「聴く」は耳+目+心（気持ち）というのが「すごいな～。そんなことだったんだ」とわかりました／「あの人がうなずくだけで出る勇気」という言葉が一番心に残りました／聴くことの大切さを楽しいゲームで教えてくれてありがとうございます／きちんと聴くということがわかってよかったです／「友だちづくり名人になるヒント」を教えてもらってから、友だちが意見を言っているときにうなずけるようになりました／楽しく、真剣に聴くことの大切さを教わりました／「あの人がうなずくだけで出る勇気」、この言葉を忘れないようにします／少しの時間で聴くことができているかがわかるなんてビックリしました／聴き上手だとほめてもらったのもうれしかったです／ゲームで聴き上手かどうか確かめることができ楽しかったので、家でもお姉ちゃんと妹に教えたらとても楽しそうでした、等

5. 参観教師の感想

Table 2 には提示授業を参観した教師の感想を示した。実際に SST を活用した授業を参観することで、「SST が子どもたちの人間関係づくりや人間形成にとっても大切であることを再認識した」「ただ教えて、させるだけではなく、楽しみながら友だちと一緒に活動する喜びを味わうことが大切なんだと学んだ」等の感想にあるように、SST の意義や実施上のポイントについての理解が深まったのではないかと考えられる。

Table 2 提示授業参観教師の感想

SST 授業を参観し、「子どもは遊ぶがごとく、しかし、教師は遊んでいない（ねらいをしっかりもつ）」ことの大切さがはっきりイメージできた／授業後、子どもたちが「あー、楽しかった！」と言っていた。私もそんな授業ができるようになりたい／授業を参観し、今の子どもたちには本当に SST が必要なんだと実感した。子どもたちが将来生きていくうえでも、力を入れて SST をやっていきたいと思うようになった／ソーシャルスキルが身につくよう、私自身、常に活動の意図をもって子どもと接したいと思った／「教師が見本」。子どもは私たちの言動をよく見ていると思うので、自分自身が挨拶や表情、話の聴き方等を気をつけて、子どもに接したり、授業をしたりしたい／導入の段階で、曾山先生が楽しい話を交えながら子どもたちとの距離を縮めようと働きかけていた。その結果、子どもたちが安心感をもって活動に参加し、あらためて雰囲気づくりの大切さを学んだ／活動のはじめに「友だちづくり名人になるには聴き上手になること」という目標を示すことで、子どもたちが皆、意欲的に活動できていた／子どもたちに聴くことを意識させ、集中力を維持させながら、いつの間にか、ずっと前からの担任のように、子どもたちは先生の世界に引き込まれていた。SST が子どもたちの人間関係づくりや人間形成にとっても大切であることを再認識した／SST はスキルを身につけさせる方法だが、ただ教えて、させるだけではなく、楽しみながら友だちと一緒に活動する喜びを味わうことが大切なんだと学んだ／子どもに身につけさせたいスキルを、いかにゲーム的な活動に盛り込むのが難しい部分であり、それをうまくできるようになることが自分自身の課題だと思った／子どもの心を開く、穏やかにテンポよく進める、活動に変化をつける、名前を呼ぶ、うなずく、等々の実際の授業を参観し、「私もそんな SST の授業をしたい」とメモの手が止まらなかった、等

6. まとめ

本実践報告は、筆者の継続研究である「短時間グループアプローチ」の新たな取り組みについてまとめたものである。以下、本実践プログラムの成果と今後の課題について述べたい。

実践プログラムの成果については、児童・教師の自由記述から、前述の「学級における SST の活用ポイント」に留意することで、思春期前及び思春期段階の児童が混在する小学校 5 年生に対しても有効に活用できることが示唆されたのではないかと考えられる。SST 等のグループアプローチは、児童が、学級内の他者の価値観に触れる・気づく機会を様々な用意することが可能である。大人からの評価以上に、友人からの評価が気になり始めるのが思春期である。そうした時期の児童を教え、育むには、教師の自由記述にあるように、「ただ教えて、させるだけではなく、楽しみながら友だちと一緒に活動する喜びを味わう」という視点がより重要になってくるだろうと考えられる。思春期は、心理学的に「疾風怒濤」と呼ばれ、心身共に不安定な時期である。その「揺れ」が最も大きくなるのは中学校段階である。筆者はこれまで、中学校生徒を対象にした「短時間グループアプローチ」の効果検討を行っていない。今後の課題である。

<参考；全児童の授業感想> *以下、下線部は Table 1 に引用

	自由記述（児童のアンケート原文のママではなく、読みやすく漢字に変換した箇所もあり）
男 1	<p>ぼくは曾山先生の授業を受けて「聞く」とは違う「聴く」は耳+目+心（気持ち）というのが「すごいな～<u>。そんなことだったんだ</u>」とわかりました。あと「ゴジラとゴリラ」はルールがわかりやすいからすぐに誰でも聴き上手になれると思います。「あの人がうなずくだけで出る勇気」は、他の人が「え～」とか言っていて恥ずかしくても誰かひとりでもうなずいてくれれば勇気をもてるという意味だと思うので、これからやっっていこうと思いました。</p>
男 2	<p>前は SST を教えてくださりありがとうございます。「後出しジャンケン」や「ゴジラとゴリラ」が本当に楽しかったです。しかも、あの「あの人がうなずくだけで出る勇気」なんて、すごく「いい俳句だなあ」と思い、お母さんに言ってみたら、「曾山先生すごいなあ」と言っていました。やはりぼくも「すごいなあ」としか思えませんでした。次に会うとき、「曾山先生」と呼ぶのではなく、「曾山大先生」と呼びたいぐらいです。またいつか曾山大先生に教わりたいです。</p>
男 3	<p>SST 楽しかったです。特に楽しかったのは、2 番目にやったゲーム「ゴジラとゴリラ」です。小菅先生の「アドジャン」も楽しかったですが、やっぱり曾山先生の「ゴジラとゴリラ」です。名前もおもしろいし、遊びもおもしろかったので家に帰ってからお母さんお父さん、お兄ちゃんと遊びました。楽しかったです。2 つの遊びを教えてくださいありがとうございました。</p>

男 4	「友だちづくり名人になるヒント」を教えてくださいありがとうございます。「後出しジャンケン」で先生が何を出すかあまりわかりませんでした。それから「ゴジラとゴリラ」、「モグラとモスラ」、「ウサギとウナギ」をやって何が出てくるのがわかりませんでした。この楽しいゲームをやらせてくれてありがとうございました。
男 5	SST の時に「後出しジャンケン」や、「ゴジラとゴリラ」のゲームなどを教えてくださいありがとうございます。すごく楽しかったです。あと、友だちづくり名人になる方法などを教えてくださいありがとうございます。
男 6	曾山先生が来て、ぼくたちに2つのゲームを教えてくださいました。1つ目は「後出しジャンケン」です。2つ目は「ゴジラとゴリラ」です。2つとも楽しく出来て良かったです。「ゴジラとゴリラ」だけでなく、「うさぎとウナギ」、「モスラとモグラ」もやってすごくおもしろかったです。
男 7	曾山先生、この前は本当にありがとうございました。「後出しジャンケン」や「ゴジラとゴリラ」、どっちもとてもおもしろかったです。最後に言ってくれた「 <u>あの人がうなずくだけで出る勇気</u> 」という言葉が一番心に残りました。耳+目+心で聴くという漢字でできているという言葉も心に残りました。
男 8	この前、SST（ソーシャルスキルトレーニング）をやって楽しかったです。「後出しジャンケン」は引き分け・勝つのは簡単だったけど、負けが難しかったです。「ゴジラとゴリラ」は精神力・瞬発力を使ってゲームをしたので、疲れたこともあれば楽しいこともありました。おもしろかったです。
男 9	楽しいゲームで確かめてみようのゲームの「後出しジャンケン」で負けるのは、勝つよりも難しかったです。「うなぎとうさぎ」の時、うなぎとうなじが聴き分けられなかったので、もっとしっかりと聴くようにしたいです。ぼくたちに「友だちづくり名人」になれる方法を教えてくださいありがとうございます。
男 10	曾山先生、楽しみながら友だちづくりになるヒントを教えてくださいありがとうございます。「ゴジラとゴリラ」「後出しジャンケン」の2つのゲームはとてもおもしろかったです。友だちづくりになるヒントはこれからも役に立ちそうです。
男 11	今までの SST の中で一番楽しかったです。まず、「友だちづくり名人」。これは結構ためになりました。そして「後出しジャンケン」。これはすぐに何を出すかを考えるのが大変でした。「ゴジラとゴリラ」も難しかったです。けれど、おもしろかったです。
男 12	ぼくたちが「アドジャン」をしてからの曾山先生の授業、楽しくておもしろかったです。特に、「ゴジラとゴリラ」、「モグラとモスラ」、「ウサギとウナギ」など、言葉がわかりにくいものもあったけど、おもしろかったです。あと、「あの人がうなずくだけで出る勇気」という言葉はいい言葉だなと思いました。また来年も来てください。
男 13	「後出しジャンケン」では聴き上手という力がもっと強くなった気がします。ありがとうございます

	<p>した。「ゴジラとゴリラ」はすごく難しかったです。でも楽しくて、家でもやってみました。そしたら妹の方がうまかったです。「後出しジャンケン」もやってみようと思います。</p>
男 14	<p>聴くゲームはおもしろかったです。「後出しジャンケン」では、勝つのは簡単だったけど負けるのはむずかしかったです。そして「ゴジラとゴリラ」、「モグラとモスラ」や「うなぎとうさぎ」などがあったのでおもしろかったです。</p>
男 15	<p>人の話を聴くというのは、耳と目と心で聴くということを教えてくれてありがとうございました。それと、<u>聴くことの大切さを楽しいゲームで教えてくれてありがとうございました。</u>友だちづくり名人になるヒントを教えてくれてありがとうございました。曾山先生の授業、とてもおもしろくてわかりやすかったです。</p>
女 1	<p>曾山先生の授業すごくおもしろかったです。特に「ゴジラとゴリラ」がおもしろかったです。<u>きちんと聴くということがわかってよかったです。</u>「友だちづくり名人になるヒント」を教えてもらってから、<u>友だちが意見を言っているときにうなずけるようになりまし</u>た。私が意見を言っているとき、友だちもうなずいてくれました。曾山先生、楽しかったです。</p>
女 2	<p>私が一番勉強になったことは、友だちづくり名人になるヒントです。今も「あの人がうなずくだけで出る勇気」という言葉が私の頭に残っています。また勉強したいです。そしてゲームの中で一番楽しく勉強できたのが、「ゴジラとゴリラ」です。<u>楽しく、真剣に聴くことの大切さを教わりました。</u>「ウサギとウナギ」の時、ウナジと曾山先生が言い、見事に間違えてしまったので、再チャレンジにまたやりたいと思います。今度は間違えないように真剣に聴こうと思います。勉強を教えてくれてありがとうございます。また勉強を教えに来てください。</p>
女 3	<p>私は曾山先生の授業を受けて学んだことが2つあります。1つ目は「後出しジャンケン」のことです。「後出しジャンケン」では、曾山先生に勝ったり負けたりあいこになったりするには、しっかり曾山先生の指を見なければならない、きちんと話を聴いて次はどうすればいいか考えなければならないということ学びました。2つ目は「ゴジラとゴリラ」のことです。「ゴジラとゴリラ」では曾山先生の言ったことを守るには、曾山先生の話をしっかり聴き、自分たちで勝手に進めてはいけないということ学びました。曾山先生の授業を受けてたくさんことを学びました。</p>
女 4	<p>曾山先生の授業を受けて「楽しい」という気持ちと「なるほど」という気持ちがありました。1つ目の「後出しジャンケン」は、最初の方は簡単と思ったけど、最後の方になると早くなってきて、負けたり勝ったりすることがあって、少し難しかったです。2つ目の「ゴジラとゴリラ」は、たたくのも難しいし、叩かれないようにするのも難しかったです。でも、それが楽しかったです。</p>
女 5	<p>「後出しジャンケン」や「ゴジラとゴリラ」、楽しかったです。私は「友だちづくり名人」になりたいと思いました。<u>「あの人がうなずくだけで出る勇気」、この言葉を忘れないようにします。</u>また、先生に会えるといいです。SSTとても楽しかったです。</p>

女6	曾山先生の SST、すごく楽しくて私も友だちづくり名人になれるかなあとドキドキしました。「後出しジャンケン」で自分が負けるのはすごく難しかったです。「ゴジラとゴリラ」では私はゴジラなのにゴリラと言われたとき相手の手を叩いてしまいました。友だちづくり名人は、まだまだかもしれないから頑張りたいです。また曾山先生に教えてもらいたいです。
女7	「ゴリラとゴジラ」や「後出しジャンケン」とても楽しかったです。「ゴリラとゴジラ」はやったことのない遊びだったので、いっそう楽しく思えました。少しの時間しか曾山先生の授業ができなかったのが残念でした。友だちと「ゴリラとゴジラ」や「後出しジャンケン」で、授業の時のように盛り上がりたいたいです。
女8	曾山先生とやった2つのゲーム、楽しかったです。少しの時間で聴くことができているかどうか <u>がわかるなんてビックリしました。</u> 少し難しいことも楽しく、わかりやすく教えてくれてうれしかったです。友だちづくり名人のことなど、いろいろ教えてくれてありがとうございました。
女9	先生が教えてくださった、「後出しジャンケン」や「ゴジラとゴリラ」、おもしろかったです。あと、「五・七・五」になっている「あの人がうなずくだけで出る勇気」は、「ああそうだなあ」と思いました。なぜかという、私にもそんな友だちがいるからです。
女10	SST の授業ありがとうございました。とても楽しかったです。「後出しジャンケン」も楽しかったし、「ゴジラとゴリラ」も楽しかったです。 <u>聴き上手だとほめてもらえたのもうれしかったです。</u> (「うなぎとうさぎ」では「うなじ」を聞き間違えましたが・・・)。私は遊ぶのが好きなので楽しかったです。
女11	曾山先生の授業は、とても楽しかったです。特に「ゴジラとゴリラ」がおもしろかったです。 <u>ゲームで聴き上手かどうか確かめることができ楽しかったので、家でもお姉ちゃんと妹に教えたらとても楽しそうでした。</u> 「後出しジャンケン」も楽しく3人でやりました。曾山先生、授業(SST)を教えてくださいありがとうございました。
女12	この前の、曾山先生の授業でやった「ゴジラやゴリラ」の遊びがおもしろかったです。友だちとやったり、班でやったりしてあらためて「友だちづくりって大切なんだなあ」と思いました。あと、「あの人がうなずくだけで出る勇気」が気に入りました。とても楽しかったです。ありがとうございました。大学でもいろいろなことをがんばってください。

【参考文献】

- ・石川信一・山下朋子・佐藤正二 2007 児童生徒の社会的スキルに関する縦断的研究
カウンセリング研究, 40, 38-50.
- ・岩上高志・戸ヶ崎泰子・嶋田洋徳・坂野雄二 1998 中学生のセルフエスティームに関する研究 2-セルフエスティームと学校ストレスとの関係 日本心理学会第62回論文集,
963.

- ・杉森伸吉 2009 国際社会の範として異質な他者への博愛を育む道德教育を. 学校マネジメント, No. 637, 明治図書, 12-13.
- ・曾山和彦 2011a 継続的なソーシャルスキル・トレーニングが学級適応に及ぼす効果—朝の会・帰りの会を活用したショートプログラムの実践— 日本カウンセリング学会第44回大会発表論文集, 113
- ・曾山和彦 2011b 小学校における継続的なソーシャルスキル・トレーニング実践とその効果 教育カウンセリング研究第4巻第1号, 37-46
- ・曾山和彦・武内早奈美 2012 ショートプログラムによる継続的なソーシャルスキル・トレーニングが学級適応に及ぼす効果 名城大学教職センター紀要第9巻, 27-34
- ・曾山和彦・木原明子 2013 朝の会を活用した短時間のグループ体験が小学校1年児童の学級適応に及ぼす効果～れん友タイムの実践 名城大学教職センター紀要第10巻, 27-34